

巻頭言



熊本県立天草高等学校

校長 中川 正利

平成 29 年度に始まった本校 SSH も、令和 4 年度から第Ⅱ期に入っています。「サイエンスの宝島『天草』から世界へ」を合い言葉に、「探究的な問いの視点で地域を見つめ、科学的思考で持続可能な世界を創造する科学技術人材育成」の研究開発課題のもと、「問いを立てる力」「情報を収集する力」「情報を分析する力」「対話する力」「創造する力」の 5 つの力の育成を目指しています。

第Ⅰ期 5 年間の成果を基に、第Ⅱ期では課題研究の全校展開とさらなる充実を目指しています。一つ目が、AS（天草サイエンス）クラス以外の 2，3 年生での学校設定科目「天草探究（AT）」の開設です。ASⅠで習得した探究手法を更に発展させ、天草のフィールドワークから見えてきた課題を SDGs の 17 のターゲットに当て込みながら解決策を探る探究活動を理系クラスに加え文系クラスにも広げています。二つ目が、課題研究の手法を教科の授業にも組み込む「天高版探究型授業」の推進です。13 の探究場面を設定し、全ての教科科目の授業内で、多角的な分析や思考・判断力の向上による協働的な学びに繋げることを目指します。これらが有機的に連携することにより、全ての授業をとおして課題研究力の向上を図り、AS・AT における研究のさらなる質の向上につながると考えています。他にも、探究活動に必要な理科全分野の基礎を学ぶ「総合理科」や、日常の事象を数学的な視点で探究する「数科学探究」といった学校設定科目を開設し、課題研究を支え、深める取組を行っています。

第Ⅱ期 2 年目となる令和 5 年度は、「英語を活用する」探究場面の展開にも取り組みました。科学部がつくば Science Edge にて創造指向賞を受賞し、Global Link Singapore への 2 度目の出場を果たしました。海外で研究発表や質疑応答を行う力は、グローバルな視野を持つ科学技術人材の育成の基盤をなすものです。このことを受け、ASⅡの授業では、全班が発表ポスターを英語で作成し、海外研修代替研修において英語で発表及び質疑応答を行う活動に取り組みました。このような活動を本校 SSH の今後の発展につなげていきたいと考えています。

令和 5 年度には、校内の日課や組織の改編にも取り組みました。研修日課を設け、職員が午後半日を研修に専念できる時間を確保する環境整備を行いました。組織の改編では、各教科主任と SSH 研究部による授業担当者会を設け、各教科会を通じて SSH の理念を共有する試みを行なっています。今後も効果を検証していきたいと思えます。

天草市との共同開催である環境シンポジウム「アマプロ」も第 3 回を数え「生態系の保全」をテーマに開催しました。このことは、SSH 研究が、持続可能な社会を自治体や住民とともに創り出す拠点となる可能性を示唆しています。

行政や大学及び企業・団体との連携も深まりを見せています。本研究の推進にあたり、文部科学省、国立研究開発法人科学技術振興機構、運営指導委員会及び熊本県教育委員会をはじめ多くの関係者の皆様方から頂いた御指導・御支援に対し心から感謝申し上げます。